

患者・市民とともにあゆむ J-SUPPORT ～支持・緩和・心のケア開発を目指して～

登壇者プロフィール

総司会



香留 美菜

徳島県がん患者団体協議会 代表

2010年に家族をがん療養後に在宅で看取り、そのことをきっかけにがん患者や家族の支援活動始める。当事者が気兼ねなく話をし、見聞きできる場所を作りたいと患者サロンやピアサポート活動を開始。以降、リレーフォーライフとくしまなど当事者と医療者が交流する機会を作るなど多様な立場に関わる場作りに取り組んでいる。

がん患者と家族の会 キャンサーライフとくしま 代表

徳島県がん患者団体協議会 代表

全国がん患者団体連合会 理事

開会挨拶

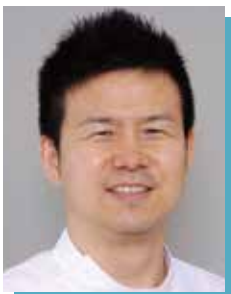


間野 博行

国立がん研究センター 理事長／
研究所長

1984年東京大学医学部卒。1989年米国セントジュード小児研究病院生化学部門留学の後、1991年東京大学医学部第三内科助手、1993年自治医科大学分子生物学講座講師、2001年同大学ゲノム機能研究部教授となりEML4-ALK肺がん原因遺伝子を発見。2013年東京大学大学院医学系研究科細胞情報学分野教授、2016年国立がん研究センター研究所長、2018年同センターがんゲノム情報管理センター長、2021年日本学士院会員、2025年国立がん研究センター理事長。がん遺伝子研究、ゲノム医学が専門。

J-SUPPORT 紹介



松岡 弘道

国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科／支持・緩和医療開発部門／J-SUPPORT 代表

2002年奈良県立医科大学卒業の後、2012年近畿大学大学院腫瘍病態制御学卒業。同年より緩和ケアチーム専従医、2017年に豪UTS客員教授となり、国際共同研究のノウハウを学び帰国。近畿大学医学部心療内科准教授を経て、2020年より現職。2024年4月より支持療法開発部門長併任。J-SUPPORT代表。日本サイコオンコロジー学会業務執行理事、日本緩和医療学会理事。

体験談：心に寄り添うチーム医療



清水 敏明

Japan for LIVESTRONG 共同代表

1966年生まれ。2012年、45歳で舌癌を発症し、舌の1/4と首のリンパ節を切除。半年後、右顎骨に再発が判明し、右顎骨と舌半分の切除に加え周囲の筋肉や神経の切除を行い、再建手術を受ける。これまで放射線治療・抗がん剤治療のほか再建手術を含め9回の手術を経験。手術の後遺症で、言語機能障害4級、肩関節機能障害5級の障害者手帳を取得。建設現場の現場監督の仕事をしていたが、癌罹患をきっかけにデスクワークに職種転換。

研究成果報告：頭頸部がん患者さんの手術後の回復の質を高めるために（J-SUPPORT2002/PreSte-HN 試験）



今井 隆之

宮城県立がんセンター 頭頸部外科

2002年浜松医科大学医学部卒業。2014年東北大学大学院医学系研究科修了。医学博士。2009年7月から宮城県立がんセンター頭頸部外科勤務。2020年4月から宮城県立がんセンター栄養管理室長兼務。耳鼻咽喉科専門医・指導医、がん治療認定医、頭頸部癌専門医・指導医、気管食道科専門医、日本栄養治療学会認定医。専門は頭頸部外科、栄養治療など。

パネルディスカッション：「良い手術」とは？～医療者と患者の視点から考える～



横田 知哉

静岡県立静岡がんセンター 消化器内科(頭頸部)／J-SUPPORT

1998年京都府立医科大学卒業。2004年同大学院修了。2005年からMD アンダーソンがんセンター留学、2008年愛知県がんセンター薬物療法部、2011年より静岡県立静岡がんセンター消化器内科勤務、2025年より静岡県立静岡がんセンター 消化器内科部長。日本臨床腫瘍学会協議員、日本がんサポーターブケア学会評議員、日本頭頸部癌学会代議員、J-SUPPORT 執行委員・支持療法グループ チーフディレクター。専門は腫瘍内科、頭頸部癌、がん支持療法。



福智 木蘭

頭頸部がん患者と家族の会 Nicotto 会長

18歳から4年間歌手やDJで芸能界活動。引退後中国北京音楽学院短期留学。帰国後NHK中国語講座やTBS「音楽の旅はるか」に出演。1996年超希少がんの鼻中隔がんで大手術。顔の真中がスッポリ空洞となり嗅覚も失う。2012年から医療系イベントの司会やYoutube番組、シンガーソングライターとしてがん患者応援活動を始め、2017年に乳がん啓発と術後のリハビリの為に制作した「のの字の歌体操」が米国MDRTよりQOLG賞を受賞。頭頸部がん患者と家族の会 Nicotto 会長。NPO法人がん患者団体支援機構副理事長。



松浦 一登

国立がん研究センター東病院 副院長(教育担当)兼 頭頸部外科長

1990年東北大学医学部医学科卒業、同年同大学医学部耳鼻咽喉科入局。国立がん研究センター東病院頭頸科レジデントならびにスタッフ、宮城県立がんセンター頭頸部外科長、同副院長を経て、2019年より国立がん研究センター東病院頭頸部外科長、2025年より同副院長(教育担当、併任)となる。東北大学、東北医科薬科大学、金沢医科大学、信州大学の客員教授を併任。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会理事、日本頭頸部癌学会理事。頭頸部癌に対する機能温存手術を専門とする。



原田 剛志

国立がん研究センター東病院 リハビリテーション科

登録理学療法士、専門理学療法士(予防)。慶應義塾大学大学院修了、医学博士。2018年より国立がん研究センター東病院リハビリテーション科勤務。慶應義塾大学医学部共同研究員。日本がん・リンパ浮腫理学療法学会 理事、日本老年腫瘍学会 理事、千葉県理学療法士会 代議員、日本がんサポーターブケア学会 リハビリテーション部会委員、WHO Standards for rehabilitation services 委員、他。

閉会挨拶



瀬戸 泰之

国立がん研究センター中央病院長／J-SUPPORT 顧問

1984年東京大学医学部卒。同年、同大学医学部第一外科入局。国立がん研究センターがん専門修練医、中通総合病院副院長、がん研有明病院上部消化管担当部長、東京大学医学部消化管外科学教授などを経て、2019年、同病院長。2024年4月より国立がん研究センター中央病院長に就任。「患者ファースト」を掲げ、専門家集団を率いる。臨床ではロボット支援手術を活用した食道がん根治術「NOVEL」などを開発した世界的外科医としても知られる。

開催日時：2025年11月19日(水) 18:30～20:00

申込先：こちらのリンクからお申込みください

<https://100ninkaigi.jp/event/J-SUPPORT2025/>

※お申込み締切：2025年11月19日(水)

(研究成果報告会終了時間までお申し込みいただけます)



【主催】 J-SUPPORT 日本がん支持療法研究グループ

【共催】 一般社団法人 全国がん患者団体連合会

【運営支援】 キャンサー・ソリューションズ株式会社

本報告会は、全国がん患者団体連合会(全がん連)が運営をお手伝いしています。全がん連には51団体が加盟していて、政策提言や「がん患者学会」の開催、がん教育委員会、緩和ケア委員会、サバイバーシップ委員会、政策提言委員会、ピアサポート委員会、PPI委員会がありそれぞれの委員会活動などを行っています。